脚　　本　　名	秋空パッチワーク
作　　者　　名	向井　瞬
上 演 学 校 名	県立厚木北高等学校
あ　ら　す　じ	文化祭の特別企画として各クラスから代表が選ばれたが、集まったのはクラスで浮いている生徒数名だけだった。とても成功するとは思えなかったが、時間が経つにつれお互いの個性を見つけ出し心を開いていく。
作 者 連 絡 先	dreamfactory132@gmail.com（向井瞬あて）
備　　考	第54回大会

秋空パッチワーク

作・向井　瞬

登場人物

木崎（きざき）　明乃（あけの）（高校一年　女）

永山（ながやま）　悠（ゆう）（高校一年　女）

田中（たなか）　苺（いちご）（高校一年　女）

安達（あだち）　拓也（たくや）（高校一年　男）

須藤（すどう）　浩二（こうじ）（高校一年　男）

谷崎（たにざき）　沙絵（さえ）（高校教師　女）

中野（なかの）　亜季（あき）（高校一年　女）

佐久間（さくま）　香奈美（かなみ）（高校一年　女）

1

とある教室。椅子や机がまばらにある。
明乃、悠、苺、浩二が中心におり、拓也と沙絵はそれぞれ少し離れたところにいる。

明乃　あー、こういう時はどうすりゃいいんだ？

悠　こういう時ってどういう時のことを言ってるわけ？

明乃　そりゃ本番直前って時だよ。あと三十分で始まんだぞ。

苺　とりあえず気合いを入れるんじゃないかな。こういう時は。

明乃　気合いか。それならばあちゃんに教えてもらったやつがあるわ。みんなでやろうぜ。

浩二　へえ。どんなの？

明乃　こう……ウン・ババ・ホイッ！（変なポーズ）

周り、無言の反応で引く。

明乃　じゃあみんなでな。せーの、ウン・ババ・ホ……なんでやらないんだよ。

悠　かけ声がダサい。ポーズがダサい。全てダサい。

浩二　さすがにちょっと。

苺　かわいくなーい。

明乃　んだよみんなして。気合い入れるのにかわいいとかあんのかよ。

苺　かわいさは苺のポリシーなの。かわいくないことはやりたくありませーん。

明乃　じゃあこれならどうだ。いち・ごパ・フェッ！（さっきと同じポーズ）

苺　やめて！　苺が汚（けが）れる！

明乃　なんでだよ。苺はかわいいんだろ。

悠　言葉だけじゃない。

浩二　かえって異様さが増したね。

苺　せめてポーズもかわいくして。こう、きゃるーんって感じで。（ポーズ）

明乃　わかったもうそれでいいよ。全員でやるからな。おいタク！　他人面してんじゃねえぞ。お前もやるんだからな。

拓也　冗談だろ。

悠　先生もやるんですからね。

沙絵　私⁉　私は関係ないでしょ。

苺　今更何言ってんの。沙絵ちゃんも立派な関係者でしょ。

沙絵　ええー……。

明乃　よし！　かけ声でさっきのポーズな。やらなかった奴は酷い目に遭わすから。

拓也　ほんとに酷いことするからなこいつは。

明乃　よくわかってんじゃん。……じゃあいくぞ。せーの、

六人　いち・ごパ・フェッ！（ポーズ）

間。

明乃　（ポーズを維持したまま）……なんであたしらはこの忙しい時にこんなことやってんだ。

悠　あんたがやるって言い出したんでしょうが。

明乃　（ポーズを崩して）やめだやめやめ。本番前でテンションがおかしくなってんだ。

悠　あんただけね。

明乃　んだと？

悠　何？

明乃と悠、険悪なムード。

苺　でもさあ、最初の頃はこんなに仲良くなるなんて思ってなかったよね。

浩二　今まさに仲悪くなってるけどね。

苺　（二人を見てから何事も無かったかのように）こんなに仲良くなるなんて思ってなかったよね。

拓也　現実から目をそらしたぞこいつ。

悠　ま、仲良くはないけど、この面子でこの場にいると思ってなかったのは事実ね。

明乃　確かに。沙絵ちゃんなんかあたしにめちゃくちゃビビってたからな。

沙絵　ビビってないから。全っ然余裕だったから。

明乃　嘘つけ。過去に戻れるんなら指さしてやりたいくらい超絶ビビってたからな。ビビり・オブ・ビビり。

沙絵　そんなことないって。こっちこそ見せてやりたいくらいだわ。

浩二　あのー、そろそろ準備しに行った方がいいんじゃないかな。

悠　そうね。

苺　行こ行こっ。

明乃　そうか。……よし。じゃ、行くか！

2

誰もいない教室。

悠　失礼します。

悠が入ってくる。教室の中を見渡して誰もいないことを確認し、どうしたものかとたたずむ。

そこへ沙絵が入ってくる。

沙絵　あ、今日の集まりに来た人？

悠　はい。一年三組の永山悠です。よろしくお願いします。

沙絵　えーと、じゃあ悪いんだけど椅子並べるの手伝ってくれる？

悠　はい。

沙絵　八人分ね。

二人で椅子を並べる。

そこへ苺が入ってくる。

苺　集まりってここですかー？

沙絵　ええ。あ、あなたも手伝ってくれる？

苺　……はーい。

三人で椅子を並べる。

並べ終わった辺りで拓也が入ってくる。

沙絵　あ、そこの席座ってね。

拓也、指定されていない端の方の席に座る。ノートパソコンを出し、操作をする。

悠と苺は並べた椅子に適当に座る。

沙絵　（拓也に）えーと、説明終わったら自由にしていいから、とりあえずこっちに座ってくれる？　あと、ヘッドホンも取ってほしいんだけど……。

拓也　（無視）

沙絵　えーと……。

悠　先生。時間です。

沙絵　あ、そうね。始めましょう。……えーと、これだけ？　……もうちょっと待った方がいいかな。

悠　時間に遅れる人に合わせてたらきりがないと思います。始めてください。

沙絵　あ、うん。じゃあ、出席の確認から。……一年一組、赤間君。……赤間徹君、いない？　えーと、赤間君、欠席……。一年二組、木崎さん。木崎、明乃さん。……いない？　……いない、のね。はい。じゃあ、三組、永山さん。

悠　はい。

沙絵　あ、いるね。はい。……四組、中野さん……は、いない。五組、田中さん。

苺　先生。苺って呼んでください。

沙絵　え、ああ。田中苺さんね。えーと、じゃあ、苺さん。

苺　はいっ。

沙絵　えーと、六組、門野君。……いない。七組、安達君。

拓也、パソコンのキーボードを強く叩く。

沙絵　……いない。八組、西山さん……も、いない。……あれ？　（拓也に）えーと、あなたは何君？

拓也　……。

沙絵　赤間君？　……門野君？　……安達君？

拓也　（先程と同じ動作）

沙絵　……安達、拓也君？

拓也　（同じ動作）

沙絵　安達君ね。わかりました。

拓也　（同じ動作）

沙絵　えーと、八クラス中三クラスしか来てないんだけど、時間もないので説明に入りますね。まず始めに

明乃　あー、ここだここだ。

明乃が入ってくる。並んでいる席の一つに座る。

沙絵　あ、えーと、お名前は？

明乃　木崎明乃。ちゃんと出席にしといてね。

沙絵　二組の木崎さんね。えー、遅刻、と。

明乃　遅刻ぅ？

沙絵　え？

明乃、沙絵の方に迫っていく。

明乃　まだ一分も過ぎてないじゃんか。それで遅刻ってちょっと酷くない？（沙絵の肩に手を置く）

沙絵　ひっ！

明乃　（肩をもみながら）あたしさあ、担任にこれ以上欠席がかさむとヤバいって言われてんだよね。だから遅刻とかもなるたけ増やしたくないんだよね。わかる？

沙絵　ひぃいいいいい！

明乃　そういうことだからよろしく頼むよ。センセ。（席に戻る）

悠　……ばっかみたい。

明乃　あん？

悠　遅刻を増やしたくないなら時間通りに来ればいいじゃない。

明乃　なに。ケンカ売ってんの？

悠　事実を言ってるだけ。違う？

明乃　んだと？

沙絵　あの……。

苺　まあまあ。ここは苺のかわいさに免じて仲良くしてよ。

明乃　……なんだお前。

苺　宇宙のアイドル、苺ちゃんだよっ！

間。

明乃　……あほらし。（座る）

沙絵　……あ、えーと、じゃあ説明を続けますね。どこまで言ったかしら。

悠　まだ何も言ってません。

沙絵　あ、そうね。えー、まず始めに、この集まりの趣旨を説明します。皆さんは今年の文化祭に向けて、一年の各クラスから選ばれた代表生徒です。

明乃　代表生徒ねえ。

沙絵　え？

明乃　クラスの出し物に参加できないで面倒ごとを押しつけられただけだろ。

苺　……。

拓也　……。

悠　あんたと一緒にしないでくれる？

明乃　あん？

悠　私は自分で立候補したの。誰が出るかでもめるの嫌だったから。

明乃　……そりゃご立派なこって。

沙絵　……えーと、いいかな？　で、皆さんはクラスの代表なんですが、これは今年度が初めての企画なので、ぜひ頑張ってもらって来年度以降にも繋げてもらいたいんです。

苺　結局何をすればいいんですかー？

沙絵　そもそもこの企画は、文化祭においてどのクラスも食品販売ばかりで文化的な企画が少ないというところから始まっていて、

明乃　なあ、前置きはいいからさっさと言ってくんない？

沙絵　……皆さんにやってもらうのは……演劇です。

3

教室に明乃、悠、苺、拓也がいる。

悠が何か書いているのを苺が見ている。明乃と拓也はスマホやパソコンをいじっている。

苺　ねえねえ、さっきから何してるの？

悠　これから何をしなきゃいけないのかのリストアップ。演劇って初めてだし、スケジュール管理をしっかりしないと上手くいかないと思って。

苺　ふーん。大変だねっ。

悠　田中さんも手伝ってよ。このメンバーでやるって話なんだから。

苺　苺って呼んで。

悠　下の名前で呼ぶのはちょっと……。

苺　じゃやらなーい。

悠　……苺さん。

苺　苺ちゃん、がいいな。

悠　……もういい。

悠、書き物を再開する。

苺　頑固だねえ。そんなんじゃアイドルになれないぞっ！

明乃　しかし演劇かあ。クラスの除(の)け者を寄せ集めて継ぎ接(は)ぎのお芝居作って。まるで出来損ないのパッチワークだな。

苺　あ、上手いねそれ。

明乃　つーかさ、文化祭まで放課後残らなきゃならんってちょっと酷すぎねえか？

苺　でも帰らないでちゃんと残ってるんだね。

明乃　進級かかってっからさあ。少しでも印象良くしとかないと。留年だけはしたくねえし。

悠　それならもう少し協力的になってもいいんじゃないの。

明乃　あ？

悠　積極的に参加してる方が印象は良くなるでしょ。

明乃　そりゃそうだろうけど割に合わねえな。

悠　……どういう意味？

明乃　休まずに来てるってだけで十分だってことだよ。今までのあたしの素行と比べりゃ余

裕で合格点。ここでさらに頑張ってもそこまで印象が変わるとは思えないね。

苺　はー、なるほどね。

明乃　だいたい教師連中だって本気でこの企画上手くいくと思ってないだろ。寄せ集めの面子で演劇作れっつって、はいできましたーってなるわけないじゃん。一回も休まずにちゃんとやってたけど結局できませんでしたーって言えば誰も文句言えねえって。

苺　すごい。頭いいねえ。

悠　……くだらない。あれこれ理由つけてサボりを正当化してるだけじゃない。人として恥ずかしいと思わないの？

明乃　じゃあお前はこの企画成功すると思ってんの？

悠　……。

明乃　ほら。

悠　……他の誰もやらなかったとしても……私一人だけでも、やりきってみせる。

明乃　……へえ。

苺　真面目なんだねえ。

明乃　……じゃあ取引しようか。

悠　取引？

明乃　割に合わないからやらないって言ったけど、逆に言ったらメリットがあればやるって

ことだからさ。参加する理由をくれればいい。

悠　具体的に言って。

明乃　お前が教師連中を説得するんだ。あたしがすごくいい奴だって。足りないところはあるかもしれないけどあたしなりに頑張ってるんだって。留年なんかさせないでほしいって。

悠　私に嘘をつけってこと？

明乃　お前教師ウケ良さそうだしな。会議の前とかのタイミングでいろんな教師に訴えればあたしにとってプラスの材料になる。まあ、取引が成立すればこれからここで頑張るんだから、完全に嘘ってわけでもないだろ。

苺　うわー、ワルだね。

悠　……わかった。それであんたがちゃんとやるなら。

明乃　よし、取引成立だ。よろしくな、イインチョ。

悠　委員長じゃない。勝手に決めないでよ。

明乃　違うのか。まあ堅物なお前にぴったりなあだ名だろ。（苺に）お前はどうすんの。

苺　苺？　苺はアイドルだからね。みんなにそんなに期待されたら頑張っちゃうよっ！

悠　誰も期待してるなんて言ってないけど。

明乃　（拓也に）おいオタク！　お前はどうすんだ。

拓也　（無視）

苺　……ありゃ駄目だね。あの人抜きで考えた方がいいと思うよ。

明乃　まあ三人いりゃなんとかなるか。……で、何すりゃいいんだ。

悠　まずは内容の決定ね。どんな話をやるのか決めないと。

苺　苺はラブストーリーがいいな。お姫様の役ね。

明乃　お姫様て。シンデレラでもやれってか。

悠　高校の文化祭で童話なんかやったら笑いものになるだけでしょ。

苺　ええー。じゃあ、（悠を見て）えーっと……。

悠　永山。

苺　下の名前は？

悠　……悠。

苺　ゆうゆうは何やりたいの？

悠　ゆうゆう……。名字で呼んでくれればいいんだけど。

苺　ゆうゆうは何やりたいの？

悠　……高校生らしい話がいいと思う。

明乃　高校生らしい話ってどんなだよ。

悠　そりゃあ……恋愛、とか？

苺　なーんだ。やっぱりゆうゆうもお姫様やりたいんじゃん。

悠　違っ、そうじゃなくて……もっとこう、リアルな恋愛？　っていうか。

明乃　へえ。じゃあそのリアルな恋愛ってのが出てくる話はどんなのがあるんだよ。

悠　え……今ぱっとは出てこないけど……。

苺　じゃあさ。いっそのこと自分たちでお話を作っちゃうっていうのはどうかな。

明乃　あー、そうしようぜ。上手く合う話を探すよりそっちの方が早そうだ。

悠　まあそれでもいいけど。

明乃　じゃあイインチョよろしく。

悠　えっ、何。

明乃　この面子の中で話が作れそうなのってお前しかいないだろ。

悠　それはそうだけど……。

苺　あ、否定しないんだ。

明乃　んじゃさ、全員でアイデア出してイインチョがまとめるって感じでどうだ。

悠　……わかった。

沙絵、大量の本を持って入ってくる。

沙絵　あ、まだいたのね。良かったー。

苺　なんですかそれー。

沙絵　図書室にある演劇の台本を借りてきたの。必要だと思って。

明乃　ああ、いらないよそれ。自分たちで作ることにしたから。

沙絵　え、そうなの……。じゃあまあ、参考にってことで。

沙絵、本を置いて話し合いに参加しようとするが上手くタイミングがつかめず、借りてきた台本を読み始める。

悠　とりあえず恋愛ものってことでいいのね？

苺　いいんじゃなーい？　苺お姫様ね！

明乃　あたしはスカッとするのがいいな。主人公が戦って愛を勝ち取るみたいな感じだと面白いんじゃね？

悠　お姫様が出てきて、戦いがあって……。（メモをとる）

苺　相手の王子様はたくましい人にしてね。

明乃　こう、二人が結ばれるのを邪魔する奴がいてさ、それでも愛は勝つ！　みたいな感じだと燃えるだろ。

悠　たくましい王子様が、邪魔する奴を倒す……。（メモをとる）

苺　どう？　できそう？

悠　とりあえず今出た意見をまとめて……たくましい王子様が結婚に反対するお姫様をボコボコにして最終的に結婚するっていうのはどう？

明乃　いやおかしいだろ！

悠　何か不満なの？　ちゃんと出た意見を全部反映させたつもりだけど。

明乃　なんで姫が結婚に反対してるんだよ。

悠　邪魔する奴がいるって言ったじゃない。

明乃　姫が邪魔してどうすんだよ！　しかも王子が姫をボコボコにって。

悠　戦って愛が勝つんでしょ。

苺　むしろ姫の愛は負けてるよね。完全に。

明乃　こいつ意外と使えないぞ。

悠　なっ……。

苺　ゆうゆうってそういう話が好きなの？

明乃　いや、そういうレベルの話じゃないだろ。

悠　ねえ、文句があるならあなたたちがやってくれない？

明乃　それが無理だからお前に任せたんだろうが。

悠　じゃあ文句言わないでくれる？

明乃　文句とかじゃなくてそれ以前の問題だろ。

二人が言い争う中で浩二が入ってくる。

浩二　あのー……。

明乃　……誰だよお前。

浩二　あ、生徒会会計の須藤と言います。谷崎先生に用があって……。

沙絵　え、私？　えーと、何かな。

明乃と悠、なんとなく冷めてお互い離れる。

浩二　文化祭特別企画の予算なんですけど、なにぶん今年が初めてなのでどのくらい必要なのか早めに概算を出してほしいんですが。

沙絵　あ、予算ね。えーと……。

明乃　文化祭特別企画ってあたしらのことだろ。金なんてあって困るもんじゃないんだからとりあえず出せるだけ出してくんない？

浩二　いやー、どこの企画もきつい要求を出してくるところで調整してるから、とりあえず出せと言われても困っちゃうんだけど……。

苺　そこは生徒会長の権力でどうにかしてよっ。

浩二　会長じゃなくて会計ね。会計。

沙絵　えっと、ちゃんと話し合ってから出すからちょっとだけ待ってくれる？

浩二　わかりました。……そういえば先生、今日の授業で芥川龍之介の字間違ってましたよ。

沙絵　えっ、ほんとに？

浩二　芥川龍之芥（あくた）になってました。

苺　うわー、それは結構恥ずかしいね。

浩二　じゃ、予算早めにお願いしますね。

浩二、去る。

沙絵　……はあ。

明乃　……あんた国語の先生なの？

沙絵　私？　ええ、そうだけど。

明乃　じゃあさ、台本書いてくんない？

苺　あ、それいいね。

沙絵　え、ちょっと待って。私台本なんか書いたことないし……。

明乃　こいつよかマシだから大丈夫。国語教えてんだろ。

悠　……。

沙絵　いや国語とか関係ないから。……あ、ほら、じゃあ借りてきた本から選ぼうよ。こんなにたくさんあるし、いいのあると思うよ。

明乃　んなに大量に読んでられっかよ。

苺　苺本読むのきらーい。

沙絵　ええー。

明乃　生徒に協力してこそ教師だろ？　ネタ出しはあたしらもするからさ。

沙絵　そういう問題じゃなくて……。

苺　苺お姫様ね！

明乃　あたしはやっぱり戦いが欠かせないと思うんだけど、怪獣とか出てきても面白いと思うんだよね。

沙絵　怪獣⁉　おかしいでしょそれ。

苺　王子様は細マッチョでー。

明乃　怪獣が駄目だったら忍者でもいいよ。

沙絵　ちょっとちょっと。私書くって言ってないから。永山さんが書くんでしょ？　ねえ、永山さんからも何か言ってよ。

悠　……先生、できれば魔法使いも出してください。

沙絵　ええー。

4

教室に明乃、悠、苺、拓也、沙絵がいる。
明乃、悠、苺、拓也は台本を読んでいる。

沙絵　えーと、一応要望に沿う形で書いてきたつもりだけど……。

明乃　……なんだよこれ。

悠　信じられない。

沙絵　え、駄目だった？　いややっぱり台本なんて書くの初めてだし素人としてはどう取り組んだらいいかってところでつまずいちゃって結構悩んだんだけど個人的にはわりとなんとかしようと頑張った結果がこれっていうか

明乃　超面白いじゃん！

沙絵　……え？

苺　うん。すごいよ先生！

悠　あれだけ混沌としたアイデアをここまできれいに落とし込めるとは思いませんでした。

沙絵　そ、そう？

明乃　暴れていた怪獣にまさかこんな悲しい事情があったなんてな。

悠　魔法使いの伏線の張り方もなかなか良かったです。

沙絵　いやそんな、ただこうだったら面白いだろうなーって書いただけで……。

苺　お姫様の台詞にも感動しちゃった。「私の愛を止めたければ地球の自転を止めてみせて。」って！

沙絵　ああっ、声に出して読まないでよ。恥ずかしいから。

悠　私はこれが好きです。「愛は宇宙から降ってきたギフトなのかもしれないね。」

沙絵　やめて。本当にやめて。

明乃　でもさあ。一つ問題があるだろこれ。

沙絵　え？

苺　問題って？

明乃　王子役をやる人間がいない。

沙絵　それは安達君が……。

悠　たぶん難しいと思います。今日まで一言も喋ってないし。

明乃　だいたい王子ってキャラじゃねえだろあいつ。

苺　あ、でも台本読んでるよ。やる気あるのかも。

四人、拓也に注目する。

拓也、視線に気づき顔を上げる。慌てて台本を閉じて脇に置き、パソコンをいじりはじめる。

苺　今笑ってたよね。

沙絵　え、そう？　よく見えなかったけど。

明乃　まあどっちにしろ期待薄だな。

悠　あんたがやったらいいんじゃないの。ほとんど男みたいな感じだし。

明乃　やだよ。あたしは怪獣やるんだから。

悠　じゃあ誰がやるわけ。

明乃　……お前仕切りたがりのくせに肝心なとこは人任せな。ちょっとは自分で考えろよ。

悠　……何それ。私が何も考えてないってこと？

明乃　現にそうだろ。生産的な意見の一つも出さないで人の意見否定ばっかして。

悠　じゃああんたは生産的だっていうの？

沙絵　ああもう、二人とも落ち着いて……。

浩二　失礼します。

浩二が入ってくる。

浩二　谷崎先せ……あ、お取り込み中でしたか。

沙絵　あ、ううん。何？

浩二　えーと、予算をそろそろ出してほしいなー、と。

沙絵　あ！　完全に忘れてた。ここのところ台本にかかりきりだったから……。

浩二　はあ。

沙絵　ごめん。もうちょっとだけ待ってくれる？　今日中に形にするから。

浩二　わかりました。でもそろそろスケジュール的に厳しいので、必ず出してくださいね。

沙絵　ええ。本当にごめんね。

浩二　いえいえ。先生もお忙しいと思うので。

苺　うーん。できる男って感じだねえ。

悠　……あ。

浩二　じゃ、また来ます。

悠　ちょっと待って。

浩二　え？　僕？

悠　えっと……私たちと一緒に、演劇やらない？

浩二　へ？

明乃　……なるほど。

沙絵　え、何？　どういうこと？

明乃　イインチョもたまには面白いこと考えるじゃん。

悠　たまにはは余計。

浩二　あのー、できれば説明がほしいんだけど……。

悠　役者が足りないの。

苺　あ、王子様！

浩二　お、王子様？

悠　あなたならここの事情もわかってると思うし、適任だと思うの。

明乃　確かに。まあお前も王子ってキャラじゃないけどそこは妥協するからさ。

浩二　なぜか唐突に勧誘されながら唐突にけなされてるんだけど……。

悠　（明乃に）あんたちょっと黙っててよ。

苺　やっぱりさ、生徒会長なら困ってる人は助けないといけないと思うんだよね。

浩二　会長じゃなくて会計ね。会計。

明乃　どっちも似たようなもんだろ。両方カイだし。

浩二　いやそれ自分でもちょっと強引だなって思いながら言ってるでしょ。

沙絵　ああほら、困ってるじゃない。須藤君にはこれ以上迷惑かけられないって。

悠　先生は早く予算出してください。

沙絵　……はい。

苺　で、どうかな？

浩二　んー。まあやってもいいよ。お芝居には前から興味あったし……僕なんかで良ければ。

明乃　んだよ。だったらもったいぶらずに最初からそう言えよ。

悠　なんであんたはすぐそういう言い方するの。

明乃　口が悪いのはお互い様だろ。

悠　ふん。

浩二　今日はこのあと生徒会の打ち合わせがあるから明日から参加するね。

明乃　絶対来いよ。これで来なかったら承知しないからな。

浩二　了解。じゃ、また明日。

苺　待ってるねー。

浩二、去る。

沙絵　……いいのかなあ。

明乃　何も問題ないだろ。本人がやるって言ってるんだから。

苺　それよりさ、せっかく台本ができたんだから練習しようよ。

悠　そうね。文化祭までそんなに時間があるわけじゃないし。

明乃　んじゃさ、誰がどれやるか決めてとりあえず読んでみようぜ。あたし怪獣な。

苺　苺はお姫様！

悠　じゃあ私は魔法使いで。

明乃　すんなり決まったな。

苺　っていうかそれ以外ありえないよね。

沙絵　一応そのつもりで書いてたから……。

明乃　よし。じゃあ最初の魔法使いの台詞からだな。

悠　わかった。……（酷い棒読みで）「これから始まる物語は奇天烈（きてれつ）で、荒唐無稽（こうとうむけい）で、非

現実的な話かもしれない。」

明乃　お前へったくそだな。もうちょっとマシに読めないもんかね。

悠　じゃああんたがやってみなさいよ。

明乃　いいぜ。

悠　え……。

明乃　「これから始まる物語は奇天烈で、荒唐無稽で、非現実的な話かもしれない。だがそこには確かに彼らが存在し、彼らの中に物語は存在したのだ。」

悠　……。

苺　すごーい！　あけのん上手だねえ。

明乃　あけのんって呼ぶのやめろ。（悠に）どうよ。

悠　……器用なのね。

明乃　お前は不器用だな。

悠　ほっといてよ。

明乃　お前あれだろ。学校の勉強しかできないタイプ。

悠　……そんなことない。

明乃　意地張んなって。図星なんだろ。

悠　違うの。だって……勉強も、できない。

明乃　……ふっ、ははは。（大笑い）

沙絵　ちょっと、笑っちゃ駄目でしょ。

明乃　いや悪い。意外っていうかなんていうか……ふふ。

苺　まだ笑ってる。

悠　別に事実だから。笑いたければ笑えば。

明乃　だから悪かったって。馬鹿にしたんじゃなくてさ。なんかお前に親近感湧いてきた。

悠　はあ？

明乃　ちょっと誤解してたわ、イインチョ……じゃなくて、えーと……悠。

悠　何急に。気持ち悪い。

明乃　委員長じゃないんだろ。

悠　最初からそう言ってるのに聞かなかったのはあんたじゃない。

明乃　文化祭、頑張ろうな。

悠　……そんなの、言われなくても頑張るに決まってるでしょ。

5

教室に明乃、悠、苺、拓也、浩二、沙絵がおり、芝居の練習をしている。
中心に浩二が倒れており、それを悠と苺が囲んでいる。

苺　「どうかお願い、魔法使いさん。私のために命を落としてしまった王子様をよみがえらせて。」

悠　「魔法は万能ではない。自然の理（ことわり）に逆らうことをするならばそれ相応の対価が必要となる。お前にはその覚悟があるのか。」

苺　「覚悟ならあるわ。彼が生き返るなら何を捨てても構わない。」

悠　「お前の命と引き替えだとしてもか。」

苺　「……ええ。構わないわ。私は彼を愛している。彼のいない世界に未練なんてないわ」

悠　「国の民すべての命と引き替えだとしてもか。」

苺　「私は顔も知らない一千人よりも愛するただ一人を選ぶわ。地獄でその罪を永遠に償い続けることになったとしても。」

浩二　痛いたいたいたい。さっきから手踏んでる。

苺　あ、ごめん。

明乃　おい、死体が喋るな。

浩二　いや結構我慢したんだけど全然動く気配がなかったからさ。

明乃　お前役者だろ。死体役だったら踏まれてもくすぐられても殺されても動いちゃいけないんだよ。

浩二　殺されて動いたらびっくりだね。

悠　「遺体」と「痛い」をかけたってことにすればごまかせないかな。自分は遺体ですっていう意味で。

明乃　どんだけ自己主張が激しい遺体なんだよ。

苺　ねえねえ、やってて思ったんだけどさ。このシーンちょっと暗すぎないかな。

沙絵　え、そう？

悠　真面目な話をしてるんだから多少暗くなるのはしょうがないんじゃないの。

苺　でも真面目で暗いのが続くとお客さん飽きちゃうんじゃないかなあ。

沙絵　無理に明るくする必要もない気がするけど……。

苺　ね、ちょっと思いついたのやってみていい？

明乃　いんじゃね？　試しにやってみろよ。

苺　じゃあねえ、（悠に耳打ちをする）……って感じで。

悠　え、ほんとにそれやるの？

苺　うん、お願い。王子様はまた死んでてね。

浩二　はいはい。

悠　えっと……「お前の命と引き替えだとしてもか。」

苺　「……ええ。構わないわ。私は彼を愛している。彼のいない世界に未練なんてないわ」

悠　「国の民すべての命と引き替えだとしてもか。」

苺　「私は顔も知らない一千人よりも愛するただ一人を選ぶわ。地獄でその罪を永遠に償い続けることになったとしても。」

悠　「三時のおやつと引き替えだとしてもか。」

苺　「やだ！　いちごショートが食べられないんだったら王子様なんていらない！」

明乃　いやいやいや。それはないわ。

苺　えー。

悠　私もやりながら変だって思ってたんだけどね。

浩二　やる前に気づこうよ。

沙絵　それにしても、永山さんも苺さんもすごく上手になったよね。

苺　苺はアイドルだからね。これくらい当然だよっ。

明乃　悠は最初ほんと酷かったからな。

悠　うるさい。

明乃　まあでもこの調子ならなんとか文化祭に間に合いそうだな。

苺　うんうん。なんか最近いい感じだよね。

悠　そんなに楽観視もできないけどね。時間がないのは確かだし。

浩二　でも自信をつけるのは悪いことじゃないんじゃないかな。自信から生まれる力っていうのもあると思うよ。

苺　そう！　自信は大事なんだよ。

明乃　お前はいつも自信満々だよな。

苺　そりゃね。なんたって苺はアイドルだからねーってか。

明乃　もちろんっ。

苺　悠も少しはこいつを見習えよ。

明乃　私にはその生き方はできないと思う……。

悠　あ、そういえばさ、前から気になってたんだけど、（拓也の方を見て）彼は何をしてるの？

浩二　ああ、あいつはいるだけ。

明乃　毎回ちゃんと来てるんだけど、参加する気はないみたい。

悠　ふーん。

浩二　……ねえ。やっぱり安達君も一緒にやった方がいいんじゃないかな。

沙絵　なんだよ今更。だいたいもうやる役ないだろ。

明乃

沙絵　台本なら書き換えてもいいしさ。そんなに出番がない役なら今からでも間に合うと思うし……。

悠　先生、この時間がない中で内容を変更するのはリスクが大きいと思います。

沙絵　それはそうなんだけど……。

苺　沙絵ちゃん。とりあえず本人の意思を確認するのが先じゃないかな。

沙絵　あ、そうね。

沙絵、拓也の所へ行く。

沙絵　安達君。そろそろ練習に参加しない？　せっかく毎回来てるんだし、一緒にやった方が楽しいと思うんだ。

拓也　（無視）

沙絵　どうかな。安達君も参加してくれるとすごく嬉しいんだけど。

明乃　やめとけって。その手のタイプは何言っても無駄だよ。

沙絵　……ね、駄目かな。

悠　先生……。

沙絵　……私ね、この企画、最初は正直どうなるかなって心配だったの。何せ初めての企画

だし、生徒は半分しか来ないし……突っかかってくる生徒もいたしね。

明乃　……。

沙絵　でも、逆に言えば半分の生徒は来たの。来た生徒がいる以上は頑張ろうって思った。成功させようって思えた。半分の生徒が来てくれたから、私の中で折れない部分が残ったっていうか……正直言って、救われたんだと思う。安達君もその来てくれた一人。

拓也　……。

沙絵　けど、別に私が頑張ろうとしなくてもみんながどんどん前に進んでいって……最初に会ったときはよくわかってなかったけど、今なら自信を持って言える。みんなそれぞれにすごい力を持ってるんだって。……たぶんそれは安達君にもあると思うの。だから……。

拓也、パソコンを閉じて荷物をまとめる。

沙絵　え、あの……。

拓也　時間なんで。帰ります。

拓也、去る。

沙絵　……はあ。

苺　ドンマイ！

浩二　すみません。なんか僕が余計なこと言っちゃって。

沙絵　あ、いいの。私が勝手にやっただけだから……。

明乃　結構恥ずかしいこと言ったのに効果なかったな。

沙絵　お願い。傷をえぐるのはやめて。

悠　でも先生がそんな風に思ってるなんて思いませんでした。

苺　沙絵ちゃんも結構熱いんだねっ。

沙絵　本当にやめて。死にたくなるから。

明乃　……そういや、あいつの声初めて聞いたな。

苺　……確かに。

明乃　ま、あたしらもそろそろ帰るか。

悠　そうね。

苺　あ、苺はここで宿題やってから帰るから、先帰ってて。

沙絵　じゃあ最後鍵かけて職員室に持ってきてね。

苺　はい。

明乃　じゃ、おつかれ。

それぞれあいさつをし、苺以外去る。

苺、台本を読みながら練習する。

苺　「罪を負うことは怖くない。人を殺したって構わない。ただ、その罪を彼にとが、とがめ？　とがめられ、とがめられることが恐ろしい。」

拓也が入ってくる。

苺　うーん。「罪を負うことは怖くない。人を殺したって構わない。ただ、その罪を彼にとがめられ、る、ことが、恐ろしい。」んー……あ。（拓也に気づく）

拓也　……。

苺　帰ったんじゃなかったんだ。

拓也　……忘れ物。

拓也、机の上に置いてあったＣＤを鞄に入れる。

苺　……いつも音楽聴いてるよね。好きなの？

拓也　……。

拓也、去ろうとするが、出口手前で止まる。

拓也　……誰も知らないところで頑張ってる自分かっこいいとか思ってんの？

苺　え？

間。

拓也　……。（再度去ろうとする）

苺　苺はね、苺ができない子なのを知ってるから。

拓也　……。

苺　さっき自信満々って言ってたけど、ほんとは全然そんなことないんだ。苺は苺ができない子なのを誰よりもよく知ってるから、駄目な部分ばっかり見えちゃう。……でも、自分に自信がないと、周りに何か言われた時にみじめになるから。苺ができない子だ

から言われるんだって思っちゃうから。

拓也　……。

苺　だから、できないことはできるようになるまで頑張ろうって思ってるの。それだけっ。

間。

拓也　……親父が色々持ってたから。

苺　え？

拓也　……音楽。

苺　……好きなんだ。

拓也　……。

拓也、去る。

6

教室に明乃、悠、苺、拓也がいる。

明乃　よし、じゃあ次は……

沙絵がラジカセを持って入ってくる。

苺　あ、沙絵ちゃん。

悠　どうしたんですかそれ。

沙絵　音楽があった方がいいと思って。映画とかでもＢＧＭが大事だったりするでしょ。

悠　なるほど。

明乃　沙絵ちゃんもだいぶ気が利くようになったじゃん。

沙絵　うっさい。……あれ、これどうやったら始まるのかな。

明乃　おいおい、機械音痴かよ。

沙絵　最近の機械はボタンが多くて……木崎さんやってくれる？

明乃　やだよ。機械に触るとじんましんが出るんだ。

悠　あんたの方が機械音痴じゃない。

苺　あ、それなら……。

苺、拓也の方を見るが、拓也は既に動いておりラジカセの前に行く。

沙絵　あ……。

拓也、ラジカセを操作して音楽を流す。

間。

拓也　……音響なら。

沙絵　え？

拓也　役者は嫌だけど、音響の仕事なら。

沙絵　あ……うん！　お願い。機械使える人がいて本当に助かったわ。

浩二　遅れましたー。

浩二が入ってくる。

浩二　ありゃ……また何かお取り込み中？

明乃　全然。

苺　なんか……全員揃ったって感じだねっ！

悠　本来のメンバーから考えると全然揃ってないと思うけど。

明乃　ま、それはそれで面白いんじゃね？

苺　うん！　いいメンバーだよねっ。

明乃　おいオタク！　今までサボってた分しっかり働けよ。

拓也　そのオタクっていうのやめろ。俺はオタクじゃない。

明乃　働きぶりが良ければその時は考えてやるよ。

悠　なんでそこまで偉そうになれるのあんたは。

浩二　もはや一種の才能だね。これは。

明乃　じゃあ続きやろうぜ。王子が来たし最初の方やるか。

苺　了解っ。

それぞれ練習の準備にかかる。

亜季　あ、ここじゃね？

香奈美　あー、ぽいぽい。

亜季と香奈美が入ってくる。

亜季　あ、いた。明乃ー。

明乃　亜季、香奈美……。

亜季　最近付き合い悪いじゃん。ＬＩＮＥも反応悪いからわざわざ迎えに来ちゃったよ。

香奈美　あたしらってマジいい友達じゃん。

明乃　あー悪い。本番まで時間なくてさ。文化祭まではこっちに集中しようと思ってて……。

亜季　え、マジで文化祭出るつもりなの？　ダルいから適当に合わせて本番はサボるって言ってたじゃん。

明乃　あー、なんつーか……色々あってさ。やっぱ出ようかなって。

香奈美　マジで？　明乃なんかヤバいもんでも食ったんじゃね？

亜季　明乃いないとさー、なんかテンション下がるっていうか、周りの反応も悪くなんだよね。

香奈美　こんなキモい奴らといるよかあたしらと一緒にいる方が絶対楽しいっしょ。

悠　ちょっとあんたたち……。

苺　ゆうゆう。（止める）

明乃　いやほんとごめん。文化祭終わったら埋め合わせするからさ。今日は勘弁してくんない？

亜季　はあ？　あたしらよりこいつらといる方がいいってわけ？

香奈美　それマジウケるんですけど。

沙絵　ねえあなたたち、ここは文化祭の練習をする場だから、部外者は出ていってほしいんだけど。

亜季　あ？　何？

沙絵　文化祭特別企画……クラスで一人選んだでしょ？　そのメンバーが今本当に頑張って練習してるの。だから、邪魔してほしくないっていうか……。

亜季　それ言ったらあたし関係者なんですけど。

沙絵　え？

亜季　あたしこの企画のメンバーなんだけど。いいの？　先生が生徒を邪険にして。

香奈美　あ、あたしは違うけどね。

明乃　……四組の中野。

沙絵　（確認して）あ、ほんとだ……。

明乃　あ、じゃあさ。亜季も一緒にやる？　意外と面白いかもよ。

亜季　は？　やるわけないじゃん。こんな寒い面子と一緒にお遊戯とかありえないっしょ。

明乃　……だよな。

香奈美　ねえまだ？　早く行かないと店混むじゃん。

明乃　……わかった。行くよ。

沙絵　え。

明乃　このままあたしいると空気悪くなっちゃうしさ。

苺　明日は来るよね？

亜季　来るわけないじゃん。空気読めないわけ？

香奈美　この状況でまた来れたら神だよね。

明乃　え、いや……そうな。もう、来るのやめるわ。悪いけどあたし、ここで降りる。……ごめん。

明乃、荷物を取る。

悠　……ばっかみたい。

明乃　……。

悠　あんたが場を引っかき回すのなんていつものことじゃない。空気悪くするのなんて日常茶飯事だし。今までどれだけ周りに迷惑かけてたかわかってなかったの？

苺　ゆうゆう……。

悠　あんたがウザいのなんてもう慣れてるって言ってんの。図々しく平気な顔してまた来なさいよ。ここまできて降りられる方が一億倍迷惑だってことくらい、あんたがいくら馬鹿だってわかるでしょ。それともそんなこともわからないくらい馬鹿なわけ？

明乃　悠……。

悠　あんたがいなかったら全員じゃなくなっちゃうでしょうが。

苺　そうだよっ！　あけのんも苺ファミリーの一員なんだからねっ！

浩二　部外者の僕が頑張ってるのにメンバーが抜けるのはなしでしょ。

沙絵　私これから台本書き直すなんて御免だからね！

拓也　お前怪獣だろ！　全部ぶっ壊せよ！

悠　絶対帰ってきなさいよ！　……明乃！

間。

亜季　……何こいつら。キモっ。

明乃　ほんとキモいわ。……でも、そのキモいのが楽しくなってきちゃったんだよなあ。

香奈美　は？

明乃　やっぱあたしここに残るわ。

悠　明乃……。

亜季　それマジで言ってんの？

明乃　ああ。悪いけど二人とも帰ってくれる？

香奈美　あたしらよりこいつらを選ぶってわけ？

明乃　……ああ。少なくとも文化祭までは、な。なんだかんだ言ってあたし……この場が好きになってたんだわ。

亜季　文化祭終わったらまたウチらとつるむとか都合良くいくと思ってんの？

明乃　それは亜季たち次第っつーか……あたしはそうできたら嬉しいなって思うよ。

亜季　……あほくさ。行こ、香奈美。

香奈美　えー、いいの？

亜季　何言っても無駄だわこいつ。頭おかしくなってんだ。

香奈美　はー、かわいそ。

明乃　またな。

亜季　ふん。

亜季と香奈美、去る。

間。

明乃　……ごめんっ。ほんっとごめん。あたしのせいでこんなことになっちゃって。

悠　ほんとその通りね。おかげで練習時間がだいぶ減ったし。

苺　またまたー、ゆうゆうは素直じゃないね。あけのんが残ってくれて嬉しいくせに。

悠　そんなわけないでしょ。ただいないと本番ができなくなって迷惑だってだけで……。

苺　はいはい。

浩二　でも大丈夫かな。あの二人、逆恨みして練習とか文化祭の妨害とかしてきたりしない？

明乃　あー、その辺は平気だと思う。そういう陰湿な手使う奴らじゃないから。

沙絵　それにしても木崎さんが残ってくれて良かったわ。ここであなたに抜けられたらもうどうしようかと……。

明乃　その時はオタクが怪獣やるしかないわな。

拓也　ふざけんな。なんで俺がやるんだ。

明乃　他にいないだろ。

苺　違うよ。あけのん以外ありえないんだよ。

明乃　……ま、そりゃそうだな。あたしあってのこの企画だし？

拓也　かっこつけてないでさっさと練習しろ。

明乃　お前今まで散々サボっておいてよくそんなこと言えるな。

拓也　引っかき回して企画中止の危機に追い込むよりマシだろ、この暴力女。

明乃　こいつ口悪いぞ。部屋の隅で置物になってた方が良かったんじゃねえか？

悠　口が悪いのはお互い様、でしょ。

明乃　お前もな。

沙絵　ほら、そろそろ練習始めないと時間なくなっちゃうよ。

浩二　あれだけのいざこざがあったのに本番間に合わなかったらかなり恥ずかしいよね。

苺　確かに。

明乃　わかってるよ。じゃ、始めようぜ。

7

教室に明乃、悠、苺、拓也、浩二、沙絵がいる。

明乃　あー、こういう時はどうすりゃいいんだ？

悠　こういう時ってどういう時のことを言ってるわけ？

明乃　そりゃ本番直前って時だよ。あと三十分で始まんだぞ。

苺　とりあえず気合いを入れるんじゃないかな。こういう時は。

明乃　気合いか。それならばあちゃんに教えてもらったやつがあるわ。みんなでやろうぜ。

浩二　へえ。どんなの？

明乃　こう……ウン・ババ・ホイッ！（変なポーズ）

周り、無言の反応で引く。

明乃　じゃあみんなでな。せーの、ウン・ババ・ホ……なんでやらないんだよ。

悠　かけ声がダサい。ポーズがダサい。全てダサい。

浩二　さすがにちょっと。

苺　かわいくなーい。

明乃　んだよみんなして。気合い入れるのにかわいいとかあんのかよ。

苺　かわいさは苺のポリシーなの。かわいくないことはやりたくありませーん。

明乃　じゃあこれならどうだ。いち・ごパ・フェッ！（さっきと同じポーズ）

苺　やめて！　苺が汚（けが）れる！

明乃　なんでだよ。苺はかわいいんだろ。

悠　言葉だけじゃない。

浩二　かえって異様さが増したね。

苺　せめてポーズもかわいくして。こう、きゃるーんって感じで。（ポーズ）

明乃　わかったもうそれでいいよ。全員でやるからな。おいタク！　他人面してんじゃねえぞ。お前もやるんだからな。

拓也　冗談だろ。

悠　先生もやるんですからね。

沙絵　私⁉　私は関係ないでしょ。

苺　今更何言ってんの。沙絵ちゃんも立派な関係者でしょ。

沙絵　ええー……。

明乃　よし！　かけ声でさっきのポーズな。やらなかった奴は酷い目に遭わすから。

拓也　ほんとに酷いことするからなこいつは。

明乃　よくわかってんじゃん。……じゃあいくぞ。せーの、

六人　いち・ごパ・フェッ！（ポーズ）

間。

明乃　（ポーズを維持したまま）……なんであたしらはこの忙しい時にこんなことやってんだ。

悠　あんたがやるって言い出したんでしょうが。

明乃　（ポーズを崩して）やめだやめやめ。本番前でテンションがおかしくなってんだ。

悠　あんただけね。

明乃　んだと？

悠　何？

明乃と悠、険悪なムード。

苺　でもさあ、最初の頃はこんなに仲良くなるなんて思ってなかったよね。

浩二　今まさに仲悪くなってるけどね。

苺　（二人を見てから何事も無かったかのように）こんなに仲良くなるなんて思ってなかったよね。

拓也　現実から目をそらしたぞこいつ。

悠　ま、仲良くはないけど、この面子でこの場にいると思ってなかったのは事実ね。

明乃　確かに。沙絵ちゃんなんかあたしにめちゃくちゃビビってたからな。

沙絵　ビビってないから。全っ然余裕だったから。

明乃　嘘つけ。過去に戻れるんなら指さしてやりたいくらい超絶ビビってたからな。ビビり・オブ・ビビり。

沙絵　そんなことないって。こっちこそ見せてやりたいくらいだわ。

浩二　あのー、そろそろ準備しに行った方がいいんじゃないかな。

悠　そうね。

苺　行こ行こっ。

明乃　そうか。……よし。じゃ、行くか！

苺、拓也、浩二、沙絵が去る。

明乃、悠が立ち止まっていることに気づく。

明乃　……どうした？

悠　……もう本番なのね。なんか実感湧かなくて。

明乃　やけにしおらしいな。珍しく。

悠　珍しくは余計。

明乃　はは。……あ、そうだ。

悠　何？

明乃　最初にさ、取引したじゃん。

悠　……。

明乃　あたしがこの企画にちゃんと参加するかわりに教師にあたしのこと良く言ってって。……あれ、なしにしようぜ。

悠　……なんで？

明乃　あたしさ、みんなで演劇するの楽しくなってたんだ。最初はほんとにその約束だけでやってたけど、途中からはあたしがやりたいからやってた。こんな世界があるなんて知らなかったんだ。

悠　……。

明乃　……でも、それってフェアじゃないじゃん。あたしがやりたいからやってることなのにあんたに条件を課すってさ。……だから、この取引は破棄しよう。じゃなきゃあたしの気が済まない。

悠　あんたが真面目にやるかわりに、先生の前であんたを褒めろって話だったよね。

明乃　ああ。

悠　……取引っていうのはお互いにメリットとリスクがあるから成立するんだと思わない？

明乃　……？　どういう意味だ？

悠　あんたを褒めるために嘘をつくってことが私にとってリスクだったから取引が成立したわけだけど、そこにリスクがなかったらそもそも取引として破綻してる。

明乃　もうちょっとわかりやすく言ってくんない？

悠　あんたを良く言うのは私にとって嘘にならないってこと。……木崎明乃はすごくいい奴だって。足りないところはあるかもしれないけど彼女なりに頑張ってるんだって。留年なんかさせないでほしいって。……別に取引なんかなくたって言うよ。私は。……私が、そうしたいから。

明乃　悠……。

悠　……なんてね。本番前でテンションがおかしくなってるのかも。

明乃　……お前だけな。

苺、拓也、浩二、沙絵が入ってくる。

苺　あけのーん、ゆうゆうー、まだいるのー。

浩二　時間はあるようで意外とないからね。三十分なんてあっという間だよ。

拓也　もう三十分切ってるし。

沙絵　着替える時間とか考えると結構ぎりぎりかも。

明乃　ああ、今行くよ。

悠　……ねえ、みんなで円陣組まない？

苺　いいねそれ！

明乃　ああそれだよそれ！　いちごパフェじゃどうも気合いが入んなくてさあ。

拓也　時間ないって言ってんのに。

浩二　じゃあささっとやろう。ささっと。

六人、円陣を組む。

明乃　えーと、こういう時はなんて言うんだ？

悠　普通はチーム名とかじゃない？

拓也　チーム名なんてないだろ。

明乃　よし、今考えよう。

沙絵　ああ、時間が迫ってくる……。

明乃　んー、パワーガールズでどうだ。

浩二　男もいるんだけど……。

苺　苺ファミリーっていうのは？

明乃　なんでお前中心なんだよ。

沙絵　文化祭特別企画……。

拓也　そのまますぎ。

浩二　チーム演劇。

苺　いまいち。

拓也　底辺の集まり。

沙絵　それはちょっと……。

悠　……パッチワークス、っていうのはどう？

苺　パッチワークス……。

拓也　寄せ集めの俺らにぴったりだな。

沙絵　だけど、みんなが集まると一つの作品になる。

明乃　パッチワークスね。そりゃいいわ。

悠　うん。

明乃　んじゃ、そろそろ行くとしますか。パッチワークス、ファイトー……

六人　おーっ！

明るい音楽がかかり、幕。